Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Women's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 60. April, 16th 1887.

第六拾號

EDITORIAL:—Feminine Employments.

LEADING ARTICLES:—School Girls, by Prof. N. Hodsumi (concluded): Christianity and Position of Woman, by Rev. Mr. K. Ibuka (concluded).

MISCELLANIES:—Relation between Novels and Theatrical Plays, by Prof. K. Konakamura (concluded); A Bachelor's Lecture.

BIOGRAPHIES:—Caroline Herschel and her Brother; Vkon the Poetess. "Only a Girl": No. II.

CORRESPONDENCES:—News from America, by Miss Mary Longstreth.

GENERAL NEWS.

ADVERTISEMENTS.

SUPPLEMENTS:—The Prize Essays on "Japanese women's property."

●社說　女子職業の論

●論說　穗積陳重君演說(女學生に告ぐ)筆記(完)○井深梶之助君演說(基督敎と婦人の地位)筆記(完)

●叢話　小中村淸矩君述演劇と小說との關係(完)○白身先生の辭

●佳傳　兄妹の愛深かりし美談○右近の誠○婦人歎(第二回)

●寄書　費府女子病院の景況(ミスロングストレッス寄送)

●新報　十四件　●廣告

●第四回懸賞文始末附錄の二

●珊瑚の珠　(第二十九回)

○隨縁隨喜の乾芋莖法座のほとりへ間近くよつて今ま說起すを聽問せよ夫れ煩惱とハ智度論に其心がら煩ハしくれとひなやむの故に名とす婬に屬より瞋にかたより癡に屬よることれ煩惱其數八萬四千あり痛しひかな一切衆生は八萬四千の塵勞煩惱遂に苦海に沈みてハ非斥へ墮せし簪同樣ながらんとすれバ浮む瀨もなし世尊之を憐れみて其煩惱の根だやしせんとて八萬四千の法門を設けて折伏對治ありされども三千世界一度にハ手がまハり玉ハで煩惱鄕を漏されたりこの煩惱の根を斷つにハ般若波羅密にしくハなし般若波羅密太とは蠻女のやうな不具津女が孕んだと云ふとでハない波羅密とハ梵語にて反譯すれバ到彼岸これ彼岸へ到るの義なり一切衆生ハこの岸たり佛ハ即ち彼岸たり煩惱は中流たり有相の流を絕れて無相の彼岸へ升る彼岸と云ふは悟道のこと有相を出でヽ無相に走り其所に到れバ佛となる佛となれバ吾もなしわれもなけれバ煩惱なし煩惱なけれバ菩提もなし菩提なけれバ佛もなしつまる所ハ無の一字これこの悟道の極所ぞや(馬琴煩惱鄕の序)

バイロン曰く婚姻の多數は大率ね不幸なるもの也

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌第六拾號

明治二十年四月十六日

●社說

○女子職業の論

此世は優りたる者が指揮して劣りたるが從順するの場所なり故に力、智慧、德行なんどの上に於て人に優れたる者は常に之に劣る所の人々を支配して己が心に從はするものなれども此の三つに越えて更に手近く人の上に權を保たすべきは即ち財產の金力あり然れば此金力に依りては一時かの力、智慧、德行をも動かして暫らく之を制するとあり其働は無論久しきに渉るべきにはあらずと雖も而も先づ之を目前の最大優者として取扱はんとは今の世に於て免れざる所の定めあらん依て熟ら考ふるに我國の女子は其力量もとより男子に優るべきにあらず其智慧といへども多年教育を受くるなかりしが爲に遺憾なから男子ゟ劣ると勿論あるに彼の德行に至りても亦なか〳〵に男子を支配すべき程の優れたるものはあらず故に此の三の者大抵は皆な男子に劣りて而して財產の金力も亦た女子の手には全く無一物の如しと云はゞ我國の女流が常に劣者の運命に立ち始終男子の指揮をのみ崇りてたゞ〳〵之に從順するに至れるは實に止みがたきの決果あらん故に方今我國の女流の爲に計りて之に當然の權力を得させんとするには其身躰を更に強くさせて相應の力を得させ又適宜の教育を受けさせて之が智慧を增させ尙且つ其德行を更に高尙にさせて之が感化の力を養はするは悉く大切の事あり苟くも女流の開化を遠大に期するものは必ず先づ此の三點の覺悟を必要し女流自身が今日の地位を脫して男子と同等の境界に進まんと欲するにも亦先づ此類の盡力を緊要とす然れども差當り手近の方便を以て急に女權を進步せしめんには之に先づかの財產の金力を所有せしむるを最良の手段とはなすなり

之を以て吾人は婦人授產の事の方今に切要なるを感じて夙に其事を論辨すると共に世上に授產策の答文を募りて專ら名案の世に現はれんとを希圖したり女學雜誌社第四回の點取文は即ち是れ也斯て答文幾通固より皆な金玉の章と云へども中に就て尤も優れたる者四篇を採り之を擇びて四種の賞點を附したるものは曩に少しく其端緒を附錄したる後本誌の材料常に過多なるが爲に久しく其揭載を見合せたれども第五回の點取文すでに成るの運びに際するが故に本號以下復た之を每號の附錄として讀者の覽に供し併て答案者に遲載の事の止を得ざ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

るに出でたる由を深く陳謝せざる可らず
蓋し婦人に產を授くるとハ即ち吾人が前に所云る財產の金力を之に與ふるの意にして當今の女流に甚だ大切の關係あるものあり故に吾人亦私かに其策を考ふるに大要其手段を分つて二つと爲すべきものあるが如し第一ハ婦人自身に財產を得るの力を得さするものにして女子に職業を授くるの類これあり第二ハ世上の法律及び習慣をして婦人に財產を與ふるに至らしむるものにして相續遺產の權及び公務私務に立入るの自由等を廣く女子に授くるの類これ也而して此の二種の手段中にハ固より亦數多の授產策あるものと知るべし
因て先つ女子職業の事を思ふに吾國從來の習慣として婦人の手に委托したる仕事は眞に數の定りたるものなり平生四本の柱を以て運動場の境と見做し家の外に出でゝ人に見らるゝを以て此上なき不愉快としたる身には其採て從事すべき職業の多からざると勿論なり既に人の妻と爲りたる者の定りたる職業なきハ論なくかの夫に後れて貞節を守ると稱し終身營々專ら仕事に從ふものも尙ほ裁縫、洗濯、髮結、琴、鳴物の指南等を以て漸く口を糊するに過ぎず眞に皆な薄利の業なれども當人も世人も此外に女子の取るべき職業なきことと假定して安心したるハ甚だ歎息の極なりき近來ハ女子職業論多少世に行ハれて議論に實際に之を主張するものあり中にハ之が爲に特別の學校を設置して專ら婦人の職業敎育を盛んにせんと勉るものもあるハ眞に慶賀する所なれども世上一般の有樣を見れバ女子に適應する職業甚だ多きに拘ハらず實際未だ之を婦人の手に渡さゞるハ論なく輿論評判に於ても尙ほ之を授くるを以て異なるやうに感覺するの弊あり數千年來の舊習に由れるものなれは固より無理なる失にはあらざれども成べく速に斯る偏見を取去るの工夫を勉ると甚緊要ならん此頃開設ありたる工藝共進會の出品中に一百の婦人を畫いて細かに其平生を寫したるものあり畫中の人物其高き者を云はゞ緋袴大きやかに結髮琵琶の形したる官女の方々より低きは竈前にふすぶり反りたる下女井戶端に評議まちまちと見ゆる女原まで悉く寫し盡したり其尤も精かなるを云はゞ下駄の鼻緒を斷ちたる子供の爲に之を繕ふ姆あり其尤も亂暴なるを云はゞ首引腕押に餘念なく酩酊亂舞に千鳥足する下卑たる女をも見べし眞によく方今の女風を畫きたる者なり然るに此一百人を職業によりて區別せバ即ち洗濯、割烹、子守、髮結、糸紡ぎ、機織、產婆、楊弓、畫書、師匠、米搗、野働、及賤業の類等僅々たる十餘種の仕事に就も

のとなすを得べし實際には當今此外に尚ほ數多の女職あると
あらんと雖も然れども普通一般の考には大抵此類を以て既に
婦人の職業を盡し得たりとするものあり
翻て歐米文明國の實況を聞くに婦人の職業となれるもの甚
だ多し上ハ官吏、著述家、新聞記者、醫師、教師、代言人、技手の
類を初として仕立屋、製本屋、園丁、彫刻人、花造、洗濯人、蜜蜂
飼手等の類に至る迄で總て男子に劣らざる程の收益を得るの
職業數ふるに遑まあらざるあり然れども此の如き隆盛の運に
向ひたるは甚た近年の事にて彼地にも亦た昔しは我國と同樣
の弊習に縛ばられたるもの多く女子に職業を授くる如きは甚
だ宜しからぬことゝ爲したり故に今を距る四十七年の昔しかの
ハルリエット、マルチノウが力を盡して其職業を得んことを欲
したるの當時ハ女子の手に落つべきものハたゞ七個の仕事の
外ならざることを見出したり然るに去年合衆國に於て統計した
るものに依れバ現今女子の職業となれるもの合して三百種あ
りて而も尚ほ追々其增加するの傾を見ると云へり如此き隆盛
の運も其初は右に云へるが如き慇れなる有樣ありしことを思ふ
ときは今の我國の女流も亦た益す職業の自由を擴めて遂に歐
米文明の婦人と同樣の財産を受るの途に就くべき望あり吾人
は前途を懷ふて密かに自ら慰る所あるもの也

論說

○女學生に告ぐ（其三）

穗積陳重

終りに交際上の事を少々述べましやう。是迄我邦良家の處女は深窓に養ハれて居まして、交際社會にハ一切顏を出さなかつたものですが、近頃に至り文明の春風が婦人の方へも吹き廻して來まして、鶯が谷の戶を出る樣に追々と社會に現ハれらるゝ樣に成て參りました。總じて「自由が殖ゆれば責任も增す」と申しましてドウしても、人に交際いたしますれば種々の關係も生じ、樣々の誘惑もあり、多く人目に觸れ、さが無き人の口にも掛る事故、深窓の下に養れ居る處女に比しますれば、あなた方の責任ハ遙かに重くあります、故に其德義上の志操が堅固でなくてハならぬ事ハ今更申す迄もありません、これは先生達よりも屢々御聽きなされましたらう。依て私は西洋にて中等社會以上の娘ハ、此事に就き如何なる注意をなすかを御參考の爲めに御話し申します。西洋にては未婚の處女は他の婦人に比しますれば一層德義上の氣風を高尙にし、風儀等の事に就てハ非常の注意を加ふる者の樣であります。

例へば平素談話の際でも少しでも下品な事や猥褻がましき話してでも出ますれば其坐に居らず、中には色を起し席を蹴立て其座を去りまする者もあり、又ハソコを程好く立ち去る者もあります。男子に於ても苟且にも聞苦しき事を婦人の前にて語り出すを慎しみます。然るに日本にてハ從來婦人を卑しみました風より、婦人の面前にて隨分猥褻の話を始める者があります、又昔風の婦人は格別之を氣に致しません。隨分落語師や淨瑠璃語りなどが猥褻極まる事を云ふのを聞き、耻かしい共何とも思はずに笑ひ娯しむ婦人も時々見掛ますが、是等ハ誠に見苦しいもので御座います。日本にてハ前にも申せし通り婦人の前をも憚らず猥褻がましき談話を始める不作法男もありますから、其時にハ少々不都合でも其坐を避けるが宜しからふと思ひます。

又宴會集會などに招かれました時、主人又ハ賓客の中に品行上に就き如何しき評判の者などがありました時ハ、假令へ兩親は之に臨むも、未婚の娘丈けハ斷はるを常といたします。又未婚の若婦人が男女混合の宴席集會等に臨みますには、必らず兩親の中とか親戚とか婦人の教師とか其他然るべき人と同伴でなければ參らぬを例といたします。又遊興見物芝居等の如き者も、西洋未婚の若婦人達ハ其主意の如何しき物や、猥褻醜酷なる者は、見物するを耻かしいと思ひます。我邦の演劇にて申しますれば、遊女とか藝者とか或ハ盜賊とか情死をした者とかゞ、主人公となる演劇ハ中々行く事でハありません。鬼神阿松とか、妲妃の阿百だとか、阿染久松の類ハ男が視ても面白くはありません。又お岩の芝居で火吹竹にて手の指をピシ々々と折つたり又近頃或る劇場にて演ぜし狼に喰はれる所の如き非常に殘酷なる演劇は、西洋では許しませんが、日本にてハまだ男女共に面白がり「ドーモ何五郎の喰はれ方がうまい」などゝ感賞するは嘆息の至りで御座います。

又西洋の若き婦人ハ平素讀みまする書物類にも、餘程注意いたす樣であります、詩歌小說の類にても或ひハ遊女などの事が書いてあり、其他下品なる事を綴りし書類が棚にありても之を耻といたします。然るに日本では、男子にても人の面前で讀み兼る位の人情本や草双紙の類が時として貴婦人令孃の纎々たる素手に觸れ居る事を見受ける事がありますが、是れハドウか止めて貰ひ度ひ事で御座います。

箇樣にやかましく申したらば、道德堅固の婦人方ハ私に向つて斯く申さるゝかも知れません、蓮は泥中にありても濁りに

染まず、玉ハ瓦礫に混ずるも光りを失はず、我志操さへ清淨潔白にして堅固ならば、假令へ一人にて男女混合の席に臨むふが、お岩の芝居を觀ようが、人情本を讀ふが、少しも婦德を損する事ハあるまいと。一應ハ御尤で御座います。然し是等の人々ハ、現今教育を受くる婦人ハ、將來の婦人の風を作ると云ふ大責任あるを忘却して居る人々です。諺にも「鵜の眞似をする烏ハ水を呑む」と申し今あなた方の如き、充分に水を潛り魚を捕るの技倆ある人々が、世の中の急流深淵を潛つて見せますると、世間の烏娘等も之に倣ひ、事によると水を呑み、飛んだ間違を生ずる事があります。一身の爲めには兎も角、或は世人を誤る事が出來ましよう彼の「西施の顰ハ傍醜之に倣ふ」とか申し、世の中にて一番高き教育を受け居られ、美人に喩ふれば、西施とも云ふ可き方々が、顰みて觀せますると、近傍のお多福も矢張り顏をしかめます。

抑も我邦にて女子の教育の尊きを知りしハ此頃の事にて、女學の大切なと云ふ事丈けは世人も稍々分りましたけれ共、女子教育の結果はドウ云ふ者であると云ふ事はまだ知りませんから、其實例として皆なあなた方を觀て居ります。あなた方が天晴な者に成て御見せなさると、世間ハ倍々女子教育の大切ある事を信ずるに至りましやう。若しあなた方の結果思ハしくなき時は、又々明治七年以來の如く女子教育に多少の反動を招く事なし共申されません。思へハ思ひ廻す程あなた方の責任ハ重ふ御座います。故にあなた方ハ志操の堅固なる事ハ彼炭素の如く如何なる熱度に逢つても溶解せず、又惡しき元素と合して炭酸瓦斯の毒氣とならす、或ハダイモンドとなり或ハ石炭となり、能く經濟と美術を併せて、花も實もある結果を生せん事を希望いたします。(完)

○東京婦人矯風會大會演說錄

井深梶之助君演說(基督教と婦人の地位)筆記(三)

現今我邦の結婚と離縁との比例ハ如何程であるか只今暗記致しませんが恐くハ結婚が百あれば離縁が二十或ハ三十位ある比例でハありますまいか。よしや百に十の比例としても實に驚くべく憂ふべきことゝ申さねバなりません(喝采)。斯樣に輕しく妻を出す風が行はれ居る中ハ婦人が正當の地位を占め眞正の幸福を得るなど云ふことハおもひも寄らぬことで御座ります。全體日本にハドウして此のような惡風が始つたことであるかと考るに其れには種々原因のあることに相違御座りますまいが儒者の七去の教も其一大原因であると申さねバ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ありません(喝采)而して佛法や神道ハ如此き事にハドチミチ更に頓着せぬ者の樣に見ます。兎に角に是より此惡習を洗滌するには矢張キリスト敎の力を借らなければなりません(喝采)

第三には男女同等の敎で御座ります。前の辨士も述られた通我邦に於ては儒道佛道の行はれた結果として昔より男を尊び女を卑む風が御座りますがキリスト敎は之に反して神の前に於て男女とも全く同等のものであると敎へます。しかし此は日本ばかりでハ御座りません。キリスト敎の行はれぬ國でハ何處でも男尊女卑の風習の行はれぬ所ハ御座りません。印度や土耳古の婦人の事などを聞けば實に憫然に堪ぬ事共が多く御座ります。幸に我國にハ其れ程のことハありませんが矢張男尊女卑の風は免れません。然して此不釣合を直すのも亦キリスト敎で御座ります。何となればキリスト敎に於てハ女を男よりも卑い者ともせず尊い者ともせず全く同等な者と致します。若し女が神の前に於て罪人であるならば男も矢張罪人であるし若し男が神の恩惠を蒙るべきものならば女も同樣に神の恩惠を蒙るべきものと致します。故に新約書にもキリストを信ずる者の中に在ては「或は奴隷或ハ自主或ハ男或ハ女の別なしそはみなキリストに在て一躰なればなりと御座ります(加拉四ノ廿八)元よりキリスト敎に於ても男と女は天然其性を異にするものゆゑ隨て其事業も責任も違ふことハ敎へますが其品位に至てハ更に高下の別なきことを敎へます(喝采)其他に尙例を擧ればキリスト敎に於てハ女子の敎育を勸るとや又婦人が社會のために働くことを勵すこと婦人特有の溫柔遜謙の德を貴ふこと其他にも又キリスト敎が婦人の地位を高くし且之に眞正の幸福を與へる理由ハ種々御座りますが細いことハ擧んでも以上三つの敎即ち一夫一婦の敎、聖結婚の敎、男女同等の敎ばかりでもキリスト敎ハ社會改良の事に於てハ非常の勢力ある者で殊に婦人の良友たることハ明白で御座りませう。(喝采)

今より大凡一千八百八十年前に處女マリヤが救世主の母となつたことを知つた時に神を讃美して「我心主を崇め我靈ハ我救主なる神を喜ぶ是れ其使女の卑賤をも眷顧たまふが故なり今より後萬世まで人々我を福なるものと稱ふべし」と謳ましたが思ふに此ハマリヤが我知らず世界萬國の婦人の代表者として數千年來種々の壓制束縛を受た婦人が是より永く眞正の幸福を受る時が來たことを神に感謝した凱歌で御座ります。(喝采)然らば是より我邦にもキリスト敎が漸々行れんとする

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

時に當て日本の婦人方もマリヤと丶もに我心主を崇め我靈我救主なる神を喜ぶ丶今より後萬世まで人々我を福ある者と稱ふべし」と此凱歌を唱へつ丶神のため國のために御盡力あるべきことゝ存ます。私が婦人矯風會の會員方に望む所も即ち是で御座ます。(喝采)(畢)(林茂淳筆記)

●叢話

○小説と演劇との關係（三）　小中村淸矩

我國には元來上古より固有の樂舞あり三韓來朝の後韓國幷びに唐國より傳へたる樂舞追々盛にありしかば上古傳來の樂は衰へ又は唐風を交へて修正したるが今纔に東舞倭舞の類を存し又神樂催馬樂に古風を傳へたり中古以來僧家に延年の舞婦女の間に白拍子の舞あり又田樂猿樂の舞起る此れ等は舞のみにはあらず高き所に登りまたは刀玉など云ふ離れ業をもまたは笑ふ可き言詞身ぶりを交てする事にやと覺ゆ北條時代には田樂盛に行はれしかば舞の中に古事をも取交てする事となりぬ此れ演劇の濫觴と云ふ可きか足利の始め觀世氏の祖觀阿彌世阿彌の父子從來の猿樂の舞を修正して多くの新曲を作爲し其笑ふ可き態は狂言として區別し大に世に行はる然るに慶長中出雲國より國と云へる女上京し歌舞伎と云ふ業を始む此れは念佛踊ヤヽ子踊など云ふ踊の間に(踊は古く空也上人の念佛踊あり上人は朱雀村上の朝の人なれば最も古き舞より出たるものなるべけれど卑俗の方なり)國は男と婆に出でたち其夫三左衛門は女の形となり傳助と云ふ物眞似するものを交へて滑稽の態をなせり(能の狂言より移したるものなり)是れ演劇の成立ちとも云ふべし其後女歌舞伎若衆歌舞伎ありしが共に停止せられて承應年中物眞似狂言盡しと名稱を改め京と江戸とに狂言坐を立てたり然れば其始は踊と狂言(可笑の態)のみなりしを漸々古事を取込み狂言作者と云ふ者も出來て續き狂言を作爲し進歩して躰面を改め元錄寶永の頃に至ては三番續き五番續きの狂言の正本を印行したるもの今も好事家に存せり此は今云ふ筋書の如きものにして當時劇場の躰を見るに足れりさて操人形は慶長の頃より其業有りしが追々遣ふ者の上手も出來淨瑠理漸々流行してよりは其曲に合せて遣ふ事となり元文寶永の頃は竹本筑後掾(所謂義太夫)の淨瑠理盛に行はれ近松門左衛門竹田出雲など云ふ名人の淨瑠理作者も出で世間の人氣人形座の方に趣しかば狂言座にても其淨瑠理を語りて俳優が人形の代りにはたらくさまにあり終には淨瑠理狂

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

言世話狂言と區別し年〻新狂言を作るに付ては兎角時好を追ひ人氣にかなふを心がくれば狂言作者たるものは學問は扨置き氣轉を專らとする故に（少し學問氣ある者の作は却て見物少しとの説もあり然れば近松を除くの外學者なきも其の故あり）奇怪なる事は勿論慘刻や自殺や情死や强盗やの事どもを大かた幕毎に演じもと下等人の見る物なる故に淫猥の事ならでは面白からぬにより前に云ふ小説と同じく士君子は見るを恥づる事ありき維新以來は官よりも不都合の事は禁ぜられ世上にも種〻風評があるにより俳優や作者も心附きて漸〻改良に趣くさまなれど未だ强盗や情死の仕組は止まず此れは甚だ風俗に關係する事ある故に近日貴顯を始として改良會を起されしは此弊を矯正せん故もありて强ち西洋風を移さるゝのみにはあらざるべし（拙著に歌舞音樂略史と云ふものあり近日印刷すれバ今演劇の事は至つて簡畧に述べたり）

右に述る如くなれば從來小説と演劇とは實に兄弟の如きもの故に此後とても矢張大なる關係かある事と思はるさて當今小説演劇の二つは改良論日に盛なるにより終には共に體面を改むべきか小説の方は從來と違ひ無學なる人の著述も無く看る人の意も是までとは格別ならんにより數年ならずして必目さましき改良新著も顯るべし演劇の方は未だ見物人の了簡の是迄の如くなるが多くかの强盗や情死でなくては面白からずかつ劇場は甚だ損得に係る所ある故多くの年月を重ねざれば著しく改良の効は顯はるまじと思はるさて改良の類の事につきての可否討論等は世間に高論者も澤山あるによりトント勝手を知らぬ小生などが喙を容るゝ所に非ずと思へば其邊にば一向關係せず只だ古るめかしき事を述べて諸君の耳を煩はするなり

○白身先生の辭

春月太空に懸つて自ら影を寫し光樹枝の間を洩れて時に地に踦す蒼葉靜平として氣平らかなるの邊窓下に燈を暗うして獨り朗吟するものあり蓋し白身先生の廬なり。先生齡高うして未だ妻を娶らず僮兒一人を置て炊事を托す朝來自ら一室を掃除して多くは机に倚る或は讀み或は誦して思ふ所あれバ一氣呵して數百の文字立ろに成る倦めバ則ち飄々然として笻を携へて散歩し行く所を知らずと云ふ。吟聲止んで憮然として長歎す僮兒茶を侑めて伏して慰めて云く先生近來佳文を作りて頻に伉儷の樂を叙す天下の夫妻見て以て瑟琴の交を敦うするは先生の賚なり故に人思へらく先生の家に佳人あり其和樂極

りなしと然るに茅屋日を終る迄人語なく常に兀々として獨り書を讀み平生美人を顧みずして多く花を見る人先生に婚事を奨むれバ密かに安んぜざる者の如くして笑て答へ玉ハず野子殆んど其意を知るに苦しむ先生伉儷の交を以て遂に樂しからずとする乎先生の文章を如何ん先生若し之を以て樂しむべしとする乎何ぞ速に佳人を迎へて少しく自ら慰め玉ハざると其辭詰るが如く諫るが如く穆々として掬すべきものあり。先生髯を捻つて微笑して云く孺子如此く吾を思ふ歟吾が思ふ所ろ亦秘すべきにあらず抑も伉儷の樂ハ天下の至樂なり然れども此樂を得べくして而も之を得ざる時は即ち天下の至苦之に越たるはあらず故に才子佳人ハ自ら擇ぶとを重んじて容易く相婚せずと雖も撰擇の後相約するの人未だ必しも至樂を受る能はざる也ミルトンは當世第一の才子にあらずや擇ぶ所の佳人固より亦た間然すべきにあらざらん然れども伉儷の間常に協ハず後年其盲せんよりは寧ろ聾にして夫人の暴言を聽かざらんとを祈れり故にパッキンハムが夫人を評して薔薇の如しと云ふ時之をして吾は色を辨ずるものにあらず但だ日に其刺を感ずるのみと歎ぜしめたる者は何ぞや、博士パーは有名の學士なり其妻を擇ぶに於て豈に獨り暗からんや然れども其書を求るや常に妻の罵しる所となりて書齋の椅子の少しく破損したるものを繕ハざるが爲に悪口を蒙るときはまりなし如此して尚ほ和樂の喜ありと云ふ乎、フハーギウソンは著名の天文學士なり妻の人と爲りを測るに於て何んぞ獨り迂遠ならんや然れども其研究講學は常に妻の爲に喜バれず嘗て倫敦の某處に演説するや細君突然場に入り來て諸器具を叩くフハーギウソン氏をして靜かに聽衆に向ひ貴婦人及び紳士諸君余は不幸にして如此き婦人と婚姻したるもの也と云はしめたる者ハ何ぞや、シエクスピアは能く人情を穿ちヂッケンス小説中の人物は悉く眞に迫る然れども其擇ぶ所の妻の共に頑なるは何如ん、カーライルハ英國の名儒にして其文よく人を刺す獨り細君を見るの明を失つて伉儷の不幸を見たるは何如ん、亦何んぞパイロン、ゲーテ、の擇ぶ所を誤れるを奇しまんや堂々たる天下の才子尚ほ既に如此し撰擇の難きと知るべき也故に婚姻の機ハ百蛇の中に一鰻魚を混じたる箱の如し手を入れて握る所のもの多くは皆な蛇なり一尾の佳鰻を得るは眞に偶然にして常に望むべからずと知らバ吾ハ寧ろ獨り樂しむの更に安きに如かざる也試に詩歌を誦すれハ句中數多の美人あり戯れに小説を讀めバ卷中幾多の賢女あり吾れ理想の界内に於て此等の

佳人と共に逍遥遊せば亦乏しきを覺へず自身の樂ハ寧ろ黒白の雙鉢を合するの苦に優るなりと。僮兒承り畢て慨然として大に可かず膝を進ませて先生を呼んで云く……

● 佳傳

○兄妹愛深かりし美談

嘗ても論じたる如く世の男女の交際が若し兄と妹との如くあらんにハ吾人の望すでに足れりと申すべし蓋し男女が清潔と眞心と僞りなき愛とを以て相ひ交際するの樂を如何なるものぞと悟らんにハ先づ其兄弟姉妹の間柄に省みて考ふる所あるべきあり曩にハーシェル女が其兄を助けて天文學を研窮したる由をつゞりて一つの佳傳としたるが此頃のチートウカン雜誌にも亦た之と同樣の趣きを記して且つ前に認めざりける逸事を一つ二つ載せたり云く

カローリン、ハーシェル女ハ其兄の助手、書手、若くは心からある婢僕ともありて之に仕へたり其尙ほ幼きうちより同胞の愛甚だ深く兄がスタットグレーベンに氷鞋を滑らして遊び戯るゝ比ハ其間傍に立ちて之を護り何如程の寒さ身に砭すともたゞ相伴ひて家に歸らんとを樂みとせり既に長じて兄が天文を測る傍に侍りてハ寒夜インキの水凍るを忘れて之が爲に物を書付け唯だ兄の研窮の成功せんとをば祈れりハーシェル女もと美音にしてよく歌をうたへば若し音樂の師匠などと相成んにハ其運も亦高かりしならんに兄を助くるの愛は万事を抛たせて只管に天文の測量にのみ從事させたり左れば嘗て妾ハ兄がさま〴〵に工夫さるゝ研窮を成んとて音樂を自ら奏する暇もあらず然し妾ハ到底天文學者の助手として世に立つべき者ならんとも云たり此故に自らの好運名譽をバ夢にも望まず兄が若し鏡を磨きてあらんには食物を持來りて其口に含ませ好みの書籍を開きて傍らより讀聞せなどして餘念なし然ど其身も亦手づから諸機械の黄銅を磨き或ハ數度び時計の下に走り寄て時刻を測り或ハ棒を立てゝ地面を測量などして兄の勞を省きたり斯て十六年が間兄妹相愛して一室内に廣き天文の研窮に從事したるが此年に至て兄ハ妻を娶りたり此よりしてハーシェル女獨り他家を借て茲に假住ひし今は昔にかハりて絕ず兄の傍らに侍るべき由もなけれど心に思ふハ只だ兄の事のみ尙種々に工夫してたゞ兄の勞を助けんとハしたり故に常に自ら云るやうは妾ハ何事をも爲ず又何の効能だもなき者なり只

妾が知れる所ろ妾が持つ所ハ悉く兄の物なり妾ハ云ハゞ兄の用に供はりたる道具にも似たり兄の心の儘なる飼犬にも均しき所やあらんと

斯て一生人に嫁せず兄死するの後其子を養ひ取りて之を父に愧ぢざる程の天文學者と育てたるとは既に前にも記したるが如し凡ての兄妹かゝる愛に一生を送り而して世間一般の男女亦倚ほ此樣の交を得るに至らバ天地の景色則ち一變すべし

○右近の誡

昔し右近少將季縄とて又の名を交野の少將と云ひ源氏物語枕の草紙などに書残されたる人ありけり其が女誡なつくして思の深き質なれバ七條の后穏子の官女にてありける比權中納言某といふ人とかたらひけるに彼男この交を忘れじとて万の事をかけて誓ひなから其後はしたなく思ひ絶へて最とつれなかりければ

わすらるゝ身をバおもはす盟ひてし人のいのちのをしくもあるかな」と云へる歌を咏みて送りけるとなり百人一首に右近の名を添へて記せるは是なり歌の意味ハ斯く忘らるゝ吾身をバ怨みともなけれとも思ハず只だ神かけて盟ひてし人が斯く交を絶へ玉ハんよハ神罰の程にて其御命などの危きともやあらんかと歎かれて心苦しく覺へ候となり

○婦人歎　（第二回）

今日は或る大家の祝とて是非とも來り會してよとの招狀に父は固より病の床に在りて身動もならず然らバ娘のみ參るべしとの命に未だ半里の先をも心得ざるなから又も叱らるゝとの恐ろしさに唯々として從ひぬ晴れの宴會に行くべき裝とてもなきに況して由が不信切なる扱ひに揃ひたる衣服すらあらずやうく此頃洗ひたりと見ゆる單物に熱苦しき氣に鄙びたる赤き帶を纏ひて髮の亂れたるを僅かに水にて搔き上げなから素足に古めきたる下駄を穿ちて炎天を傘もなく出で行きたり一里餘りの野面を獨り物かなし氣にして歩みなから

妾ハ何故女にハ生れ來しぞ何故女にハ……

と口つゝけにして手もて路邊の夏草を剪ぎなから歩み行きぬ斯て其家に至れバ綺羅を飾りたる紳士貴婦人すでに數多來り會して園の内外にそゞろありきするあり吾を見て最と不審氣に注意するを心にはそれと悟りなから知らず顏して正面の取次所に至れば居合せたる下女ども又浮として只だ此兒の風姿をば熟視しなから漸やくにして何物か欲しう覺さるゝよやと問ふにぞ妾は得大ハたと申すものと云へるにて初て來客の

一人とハ知られたり左樣に候や先づ〳〵こちらへと腰を屈めぬ此の挨拶を聞居たりける客人等は互みに顔見合せて呟めき乍ら頻りにはたの顔を詠めては又さゝやきけり此少女年倚ほ幼けれども早くませたれば此等の扱ひを刺ゝるゝ如く感じて留るあたハず寧ぞ立歸らんとて其儘出んとする時主婦人は取次の知らせに依りて出で來り乍ら此躰を見て靜かに呼び留め

妾は須太と申す此家の主人にて候よくこそ御出ありしぞ此炎天になに……御歩るきなされしとヤレ〳〵定めしお勞れなされましたらう先づ之をお食りなされて

と椽側に居寄らせつゝ苺に砂糖を散らして與ふるに

妾は最早歸りとう存じまする

ナニお歸りなされたいとやさぞお勞にもあらんが今暫らく御留り下されませ暫時奥の座敷にてお休みなされては如何ですか」と案内するに愧かしさに心も定らずして爲すべきやうも知らず只だ此の人前を離るゝとを頼みに其儘主人に伴ハれつゝ奥の座敷に誘ハれて涼しき風の吹き通うあたりに枕さし置て介抱さるゝに禮もそこ〳〵にして早や前に平伏し顔をかくしぬ宜き程に申上れバ緩かにお休なれよと申殘して出でて行く伏間を閉づる音と共に起上りて歎息し

あゝ妾丈けは何故かう人に卑しまれませう女に生れてもあれあの先刻の女方のやうに衣飾り驕ぶりて自由にもてなさるゝものもあるを妾のみは何故このやうに輕ろしまれて……

此方には客人同志のうハさ區々にて偖ても可愛相なる娘やな得大氏とも云はれて巨万の富を有ちながら彼のやうなる姿をさするとは何事ぞと奇しめば其は云はずも知れたるとよ父は名代の吝嗇者にて特に最と殘酷にあの兒を取扱ふ上にそれ例の由婆が入り込みて何もかも掻き廻はせば可愛や女か男かと見まちがう程のあの有樣誰も憐みて世話する人のない樣子と歎けバイヤ〳〵あの兒の叔父は何とか云へる學者にて信切に介抱すると云へバ箇程まではにはあるまじきものをと不審顔するに年やゝ老ひたる學者風の人片頬に笑み乍らその叔父も又いかん〳〵前年他人の發明を竊みとりて己が顔したりと云ふ西京學校の教授得大龍造とは即ちその人のとであるものを今は世に出る面目なしとて此田舎に隱れてはあれど中々の姦物なれば其信切と云ふも頼母しからず何かの 志 ありての世話燒ならんなど物語るに然らば一人として彼兒を愛して育つべき人はあらざるにやと涙もろきは女の常とて最と憐れがる貴婦人も多く見かけぬ

龍造夫婦僅かに旗女を顧るの圖

最早時刻なり起さばやと獨語して主婦人は靜かに前の座敷に至り心勞れて熟睡したるはた女を呼び覺ませば家にて罵らるゝ經驗のありてや愕然飛び起きて眼をこすり〱早や二三歩ゆみ出せるが主婦人を見て初て心付たる樣なり手を引かれて元の園に面する縁側近う來寄れば此度は尙更に巳を見つめぬる人の多けれども皆な無言にてあれば切ては心安う覺へたり少しく隔りたる對うに池ありて其傍りに五六人の子供群れ遊びけり石を取りて連りに何物にか投げかくる模樣なればたは窮屈なる客人の邊に居たゝまらず無厭慮に立離れて池の此方に來て見れば噴水の勢もて折々に吹上る硝子の球を望みて石を投ずるなりけり妾も試みんとて小石ひろひ取り身をひねりてハタと投げやれば誤たず珠にあたりてガランと音しつ壞れたり五六人の子供は口惜しさに吝嗇者の娘よヤア〱と叫び罵るにぞ今は早や寸時も留りかねて足早に門を走り出て眞一文字に我家へと歸り去りぬ主婦人は此由を聞て大に驚き何如にせましと思ひ乍ら我身を拔きがたき用のあれば盛や盛やとその子を呼立てゝ言葉短かに言ひきかせば快活少年の常とて早くも身を挺し母の終りの言語は二三間のあなたにて耳に受止め乍ら後追かけて出で行きたり

● 寄書

○費府女子病院の景況

米國　ミス、ロングストレッス寄送
横濱　布惠利須女學校　秀蘭譯

左の一篇は米國費府女子病院の事務員ロングストレッス孃より遙かに吾雜誌へ對して寄送ありたるものなり聞くに同孃は齡尙ほ二十の星華を越る僅かに一二年を過ぎずと雖も才氣煥發して公義の志あつく夙に傳道の事に力を盡して餘念なしとぞ而て尙ほ其愛情は太平洋を横ぎつて遠く吾國の界に來り然も吾雜誌の上に於て本邦姉妹に親しむ所あらんとす吾人衷心之を謝せざるを得ず且つ横濱フエリス女學校の秀蘭女史は右ロングストレッス孃の好意に報はんが爲に自ら原文の反譯を爲されぬ吾人亦併て深く之を鳴謝す

時移り世變はり人情風俗すでに昔日と同じからず蓋し文明の進度古今に異る所あるが故なり顧れば當十九世紀の初に當り開化の流水尙ほ洽く婦女の社會に注ぎ入らざる頃は婦女の爲す所考ふる所亦大に今日と異りたり即ち日々其義務としたる者は盡く一家と云へる狹き天涯に限られて身は專ら家政に委ねるの外なく啻だ衣を縫ひ食を調へて外事に心を傾くるの暇あらざりしは實に止を得ざるの勢なりき然るに近年に至り社會の風潮一變して文明の雨女權の域内に注ぐや否や性來蒔付

られたる仁慈の萌芽愛憐の種子ハ勃々として發生し義務の天涯亦た一家内の狹きに限られず貴重の光陰を散し巨万の金銀を費して惜まずたゞ困苦の人を救ふを以て喜とおす殊勝の行ひあるに至りたるハ誠に賀すべきものにあらずや

當今我フヒラデルフヒア府中、病院、養老院、育兒院、癈疾院、其他の苦難者を救助保護する塲所甚多く其數擧て算ふ可らず思に當州の如く多きハ蓋し稀れなるべし而して此等を管理するものハ多くハ婦女あり婦女或ハ社を結び會を設けて困める者を愍み助なきに慰を與へ弱きを愛しみ遇するに仁慈の行を以てし對するに和順の語を用ひ懇切至らざるなし

一方には貴夫人中往々身を割烹料理の事に委ぬるを以て樂とし或ハ家政敎育の學校に通ひ美味膏粱の調理を學び日用割烹の方を習ひて之が講義に耳を傾け或ハ自ら手を下して行ふを以て喜とおすの風ありと雖も然れども婦人をして最もつよく其心を傾けしめ奮進感激喜ばしく勵み務めしむるの事ハ即ち病者を惠みて其苦難を顧み小心之が看護を爲すの行爲なりとす故に各週病院のクリニックハウル(看病練習所)に於て卓越せる醫博士此趣意に原きて演說し且つ附屬病院中の患者について實地の取扱方を示す此時玆に集る所の貴女常に數百名あり醫博士ハ此際醉狂氣絕其他醫師を招待するに暇なき間の看病法等を敎へ又熱病外科療治の類の心得方をも演述するを常とせり又小兒病院に於てハ小兒に有觸れたる種々の病氣を看護する法方を演說す

過る十年間にハ看護婦養成學校の設立されたるもの數多あり中に就て尤も卓越せるはフヒラデルフヒア府婦人共立病院附屬の塲所あり玆に入學する生徒ハ二十三歲乃至四十歲の婦女にして初年ハ毎日午前六時三十分より午后七時迄看護主婦の監督せる病院内の患者を看護するの法を學び其後在勤の醫師より演說を聽き又毎週一回クイッヅと稱する問答會あり此會に於て一週中に聽聞したる演說と自ら試みたる實驗とを復習す初年科にはダイエットキッチエン(患者の爲に食物を調理する科)內外科產科小兒科等に關する種々の看病法を敎ゆ又第二年生にハ實地に就て專ら之を經驗するを主旨とし院外患者の許に遣はされて其看護を爲せども尙ほ固より病院監督の下に在りて其俸給を受く

二年の終に至り府內に有名ある醫博士より試驗を受け此に及第するを得て且つ其品行の篤實なる取扱の溫和なると在勤醫師と病院の管理者として十分に滿足せしむるに足者にハ卒業

證書を授與し其姓名を簿に記して廣く世に公にす斯くすべての事に鍛錬したる看病婦の世に有益なるとは吾人の明知する所ならん盖し平癒期す可らず全快計り難きの病者永く天日を見るを得ず其喜悦快樂殆んど絶せんとする時に當りて此の謹愼温厚にして瑣事をも忽がせにせず何事にも敏捷にして公益を慮かり私利を棄てゝ廉潔の行を樂みとする看病婦あらざるよりは何を以て安慰愉樂を受るを得んや

●新報

○大學英語討論筆記（本誌第五十七號に接す）次に第二の論法に關はりて申さるゝやうは日本婦人の有樣西洋の姉妹の有樣と同樣に相成らざる限りは日本と西國との間に信實ある友義を得んと云ふは到底望むべからずとあり論者は素と外交學を修るの方とあれば其御意見も亦た尋常人の類にはあらざるべきか若し其豫言にして眞を得たりとせば余ハ吾國前途の運命に關して甚だ歎息せざるを得ず何んとなれば我國の女流をして西國の婦人と同樣ならしめんと云ふは到底吾日本の能く爲し得る所にあらざればなりよしまた爲し得るとして吾等實に之を行ふとせば日本社會の骨骸は一時に解散零落し去らんと必せり故に斯ては日本たるもの兩難の一に立ちかのシルラかチャリブヂスか何れにしても二個の毒石の中その一を取らざる可らず日本若し摸倣主義を用ひん歟勢ひ衰滅せざる可らず若し摸倣主義を用ひざらんか優者の國に惡待せられて亦死せざる可らず事の實際若し此の如くならば此れ眞に悲歎すべき者にあらずや然ど余は實に今ま悲歎すべきの事なきを知るなり。余の聞く所に依れば歐洲人中の數多の賢人は女權卓越の風習に危難と不理との存するとを承知して今ま現に此風習を改革せんとを熱心に希望すると云へり故に余は茲に確言するを得べし日本たとひ万事に於て歐風と相成らざるとも此が爲めに歐洲諸國の好意を失ふの事万なる可らず好したとひ西國の無學なる人民は此が爲に日本を笑ふとあらんとも其賢良の人は則ち此に依て我國を愛すべきなり。尚ほ余は此論者に一事を問ん抑も友義なるものは何如の事情の上に存する乎人其友の愛を受んが爲にハ頭より爪先に至るまで悉く此の友人を摸倣するとを必要とすべき乎もし如此して甲は全く乙の性質に倣ひ兩人同一の人とならんには友義を求るの利益は果して何の點にか存し數多の友人と交るの愉快娛樂ハ何處にかあら

んかの性質の至極に反對したるものが相親密とあらざるは勿論の事なりと雖も然れども眞實の友義あらんが爲には同性のうちに多少の異質あらんと甚だ切要あり万國國と國との交際亦如此く若干の異風あるを可なりとせば日本が万事に就て歐洲諸國を摹倣するの必要あらざるべし。余が以上兩反對論者の議論を破擊したる外に倘ほ批評すべき二三の理論存するあらんが此等は固と餘りに淡泊明白の事あるが故に別段之を破し去るに及ばずと思へり故に余は玆に吾論を畢らんとするに當りて更に申す余が眞實に希望する所は異に日本婦人現今の景狀を改良するにありと雖も余は又かの急激ある改革者が主張する如き迅速ある全變化を行ふの危難莫大あるとを明白に承知するもの也(未完)

○京都婦人慈善會　同會は前號に記せし如く去る二日其發會を京都倶樂部に於て開きたり同日午後二時谷口京都府書記官、財部同警部長、同志社社長新島襄氏等何れも夫人を伴ひて出席し其他尾越書記官及び諸官吏、府立學校職員、常置委員、紳士、豪商、新聞記者等或ひは婦人を伴ひ或ひは婦人のみ或ひは主人のみ出席し總て百有餘名先づ始めに京都府尋常師範學校女子部の生徒ヲルガンを以て　皇后宮陛下の御製ある金剛石の唱歌を奏し次に京都府學務課雇音樂師松本長氏が副會長北垣夫人の東上不在中に付き其委囑により開會の主旨を述べ次に西田由氏家事經濟の事を演說し次に青山正義氏親たるもの丶義務と云へる題にて演說し夫より規則を決定し庶務掛七名即ち西村七三郎、西村總右衞門、淸水公敬、西田由、安藤精軒、古川太四郎、下村庄太郎の七氏を撰擧して閉會したり今其規則書を得たれど畧す

○大坂婦人慈善會　大坂鎭臺なる陸軍將校の夫人令孃等は今度新に大坂婦人慈善會といふ者を設け其發會を去三日正午より東區大手前町偕行社の樓上に於て開きしが會合せし夫人令孃凡そ百六十餘名にて高島中將にも臨場され同氏は將校卽ち男子は身其職にあるが故に忠君愛國といふ事を心の儘戰時に實行するを得れども夫人乃ち女子は然るを得ざるが故に戰時に於ては只看病等に從事するを務めとするのみにて其は歐米に於ても同一あり會員各位は先づ此事に心して善く勉むる樣あらまほし云々といふ意味にて懇話され右了るや軍醫某氏は先づ同會の目的に向ひて直接の關係ある陸軍病院に一同を伴ひ各病室及び外科器械等を一覽せしめられたり猶此外に繃帶法化學の作用等をも一覽せしめらるゝ筈にて其手筈も調ひ居

しかど同日ハ時間少なきため之を止め繃帶法抔ハ不日同會の會場に於て教授を受くる事となし直ちに病院より再び偕行社へ引還し茶飴等の饗應ありて頓て退散を告げしハ午後五時三十分頃なりしと又同會の幹事長ハ今井與志子、幹事ハ山根米子、村井濱子、伊瀬地徳子、河北金子、西川常子、小松玉子の諸夫人、員外補助ハ篠原國清、有田徳一の兩氏にして同會の規約を得たれど餘白なきに付亦畧す

○京都府內達　京都府下町村立小學校男子職員ハ來る六月以後洋服着用致すべく且つ女敎員服裝ハ漸次に改良すべし又小學校生徒の衣服も其課業を受るに當り活潑爽快の動作に適するを要とするに付當局者ハ其父兄等に諭し質素を旨として漸次服裝を改良せしめ殊に男生徒ハ成るべく來る六月より洋服又ハ筒袖服に改めさせたしと今度其筋より其向々へ內達ありしよし去る六日發兌の中外電報に見ゆ

○仲居英語を學ぶ　大坂中の料理屋より各靑樓に使はるゝ仲居ハ是まで一般の制限ありてつと入りの髷なりしが今度一同の申し合せにて其制限を解き髮の風ハ皆各自の勝手に任するとにありたれば大概ハ東京風の丸髷島田になりたり故に仲居の內にて姉樣と云はるゝ者共が發意にて早晩內地雜居になり外國人にも親しく給仕をなさゞるを得ざるとになれば自然洋語を知らずてハ差閊えとなるべければ今より奮發して英語を習ふ樣になさんとて目下頻りに相談中なりと同地の俳章散士より通信の儘

○北海道女工學校　曩に上京中なりし北海道廳理事官藤田九萬、同學務課長三吉笑吾兩氏の發企にて同管下に女工講習學校を設立せんと種々周旋し居られしが遂に去る六日岩村同長官の認可を受けたるに付き去十日出帆の便船にて歸任せられたる由右に付き同廳よりハ創立初年に創業費三百圓　敎員給料全額、第二年目ハ敎員給料全額、第三年目ハ敎員給料半額を補助せらるゝ筈にて規則ハ凡て東京京橋區山下町の女工練習會の規則に倣ひ敎員の招聘及び諸機械裁縫地質其他の需用物品等購求ハ一切同會に委托せられたりと又同校の位置ハ先づ札幌に置く豫定なりと聞く

○靜岡　靜岡監獄署員蘆屋澄勝本縣衛生課員松本才三其他二三氏が發起となり婦人交誼會なるものを設立し去二日午後第七時初會を開かれたり入會する者無慮二十餘名該會に關する諸相談等ありて閉會當地玄蕃横町に住居する耶蘇新敎傳敎師平岩恆保氏ハ女子職業學校を設立せんと目下計畫中なり。當

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

地小學校へ通はるゝ女子達ハ多く束髮の風に化したるも未だ大人に流行せざるは遺憾に御坐候（靜岡青島すゞ報）

○麥藁細工科　三重縣津の養正學校女生徒手工科にては先頃より麥藁細工の一科を設けしが追々生徒の技術も熟達し且つ夏氣に向ひては其需用者もあるべければとて今度同校にて製造せし帽子は望みに任せて之を販賣する都合なりと

○婦人協勵會　今度大坂南本町一丁目の松井念道といへる人が發起にて婦人協勵會と云ふを同地に設立し專ら眞宗信徒の婦人を教訓し婦德を養成すると倶に該宗の擴張をも計る目的なりとか聞けり

○埼玉縣入間郡所澤町　本會通常會員福泉源三氏よりの報に去十六日午後七時頃より同郡此野村の大館新十郎方にて婦人茶話會を開設せしが來會員凡三十名外に男子五名あり守谷與總次氏は婦人の爲めに蠶牀搆造の說を演述して次に懇々養蠶方をも說き將來これらのとは最婦人の爲に有要なる旨を演べし旨報道あり（日本農會、平野師應、報）

○各地彙報　兵庫縣下菟原郡住吉村の中島金作氏の主唱にて同郡御影村に開きたる英學會は英人スチヘン氏を聘して每土曜日每に英學の教授をなすとあるが會員目下六十餘名ありて婦人は殆んど其半を占むと云ふ◎同縣下川邊郡の婦人懇和會は去二月其第一回を開きしが第二回は去三日尼崎に於て開會せり會員は追々增加の摸樣なり◎滋賀縣下野洲郡小島村外六ケ村部內にて設立せし裁縫場は生徒追々減少し目下二三名に過ぎず教師の俸額にも足らざる程ゆゑ一旦之を廢せんと協議中のよし惜むべき事にこそ◎兼て京都の同志社にて設立の企てありし同地の看病婦學校は愈よ其規摸も定まり已に此程神戶の大工高橋辰之助が工事を請負ひ手斧始めを執行せしが落成までは凡そ百日間の豫定なりと◎大坂府立女學校にては今度教科中へ職業科の一科を加へらるゝ由にて教員招聘の爲め去る三日同府會常置委員豊田氏が京都府高等女學校へ來り種々法話ありし◎山形縣下鶴岡にては先頃產婆生志願者數名の試驗ありしが何れも上出來にて一人も落第のものなかりしとか斯る僻地にして此の好結果ありしは人智進步の一端氣運の日增に開明に赴くを揣知するに足るとの話あり◎福岡縣福岡區高等小學校にては今度區會の決議により東京より師範學校卒業の生徒一名を招聘し且つ風琴をも購求して女生徒に教授せしむる筈なりと◎栃木縣栃木の女學東校にては不日定期試驗を執行するよしにて昨今は每夜生徒一同を集め夜稽古をなし

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

居ると云ふ◎和歌山縣下和歌山の藝妓にて有志のもの相集り此頃松田某氏を招聘して頻りに英語を學び居るとの事◎愛媛縣下高松にて洋服束髮は追々盛んになり警察裁判所等は勿論郡戸長小學教員等は大概洋服となり婦人束髮の如きは小學中學科教員生徒共に一般の流行にして市街各家の婦女も競ふて束髮となるもの多し併し婦人の洋服は未だ見掛ずと雖ども昨今婦人洋服店二三を開くに至りたれば早晩改良を促すの手段と知らる尤も四五の幼童女子はまゝ洋服を着るを見る◎宮城縣仙臺元荒町松操學校長朴澤三代治氏は去る六日更に本年四月六日より同廿五年四月五日迄滿五ヶ年間裁縫科教師地方免狀を同縣廳より下附されしが同時に右免狀を下付されしもの外に數名ありしとの報あり◎同縣下石の卷本町裏町邊の或る婦人が發企にて婦人談話會なるものを設けしが其目的は婦人風俗の改良を計るにありて例月一回つゝ開會する規則ありとか

○兩公使の夫人　獨米兩國公使の夫人には今度舞樂會員に加入されしが獨逸公使の夫人には非常に我國の手踊を好み目下踊の師匠を聘して頻りに稽古中なりと云ふ

○婦人新聞記者の祝賀　白耳義國ブリユーシユ府にカロリーヌ、ポープと云ふ老婦人あり餘程學識に富み且つ慈善心の深き者なれバ同府の人民は其婦を呼んで母と云へる位なり而して其婦人は一千八百三十七年四月四日より同府の新聞社長に舉げられ編輯をも兼ね今年に至るまで引續き記者を勤め社說は同人の引受にて是迄數回條例に觸れ罰せられたる事ありしが今年四月四日附を以て滿五十ヶ年に相當するに付き白耳義國の各新聞社は勿論其他諸國の各新聞社が發起となり當日は同府に於て盛んなる賀宴を開くと云へり婦人にして五十ヶ年記者たるは實に珍しき事なりと去二月廿七日獨逸發の通信に見えたり

●正誤　前號の新報内婦人公務に參與すの一項は事實相違の由に付取消○京都府立高等女學校の項中第三行目四月とあるは四日の誤り

○歐洲の酒況　ユニヲンシグナルに云くベルジウムは麥酒强酒等を多く飲用する國なるが酒屋の數は平均人口の四十一人に付一軒づゝある割合なり英國にては百四十五人に付一軒の割と云へば莫大の相違なり然るにノルエーは四十年前ベルジウムと同樣の强飲國なりしが近來追々に酒を禁ずる風起りたるより今日にてはベルジウムと非常の懸隔あるほどに飲者も少く又隨て病人も減じたりと云へり但しブラジルにては嚮に暴飮禁止會と云ふを設けたるが此頃は更に會名を改めて禁酒會とせり而して酒屋を減ずるやうの法令を發布せしめんと盡力するものあれども未だ其効を見ず博士ベチサンの言に當國の議員撰擧人十三萬人の中に三四萬の醸酒人あるとを思へば此の企望の中々に達しがたきを知るとあるは眞に歎ずべきとなり此國の酒風此如く盛んなるを以てブラジルの病院長は死人の八割は酒毒によると報告し牢獄の長は罪人の少くも七割は同樣飲酒の弊によると報告して實際の弊害の甚だ恐るべきものあるを明示せり　（未完）

ずんば人何とか云はん婢も亦默して止ま……
●日本婦人授産策答文（接于本誌第四十六號）
欲せば斯の如きの教育を受けて其習……

●日本婦人授産策答文　(接于本誌第四十六號)

ずんば人何とか云はん婢も亦默して止まさるへし必すや嚴談して其賃を請求すへし然るに艱難を共にし萬苦を甞めし婦にして一朝夫の意に逆ひ其家を去るの不幸に逢ふや其甚しきに至ては婦の所持品迄も抑留して返さゝらんとす如斯有様にして何そ其報酬を望むべけんや之を思へは其權力の薄きと殆んと婢僕にも如かさるか

然るに西洋婦人の有樣を見るに我婦人とは雲泥の相違にして實に同日の談にあらす聞く西洋にては男女同行するに男は常に婦人の後に從ひて歩み堂を昇るに婦人の手を取り食するに婦人に先たつを許さすと故に若し男子にして或は酒色に溺れ或は妾を蓄ふる等の不都合あれは婦は夫に向て離縁を請ふの權力を有するのみならす或は別居して夫の來訪を謝斷するのみならす數月の間其入費迄も出さしむると云ふ抑も彼婦人は何に由て斯の如き權力を有するやと云ふに我婦人か夫の家に至るや否や日常の小遣は勿論一身を擧けて萬般の事一に之れ夫に依賴するとは異にして彼婦人は各自相應の教育を受け相應の財産を有するを以て日用の入費は勿論夫に依賴するの點は實に少なきに由るあり而して彼婦人は亦何に由て斯の如く財産を有するかを尋ぬるに西洋にては我國の父母の財産は當繼の者一人之を貰受るの風俗とは異にして男女共に父母の財産を貰受くるの習慣あると各自か職業を愛するの念深きと且つ西洋には婦人の爲すへき職業多く婦人も亦自進んて其業を勵み財産を作り身分相應の財産を有せされは夫に見へさるの覺悟あるを以て斯る權力を有すると云ふ我婦人も斯の如きを欲せは斯の如きの教育を受けて其智識を磨き斯の如く職業を勵みて斯の如く財産を有し始めて斯の如き權力を得らるへし今日本人口三千七百萬人の内一千九百萬人を假に男子と積算すれは其の殘り一千八百萬人は女子にして男子の厄介居候を以て目せらるゝ者あり今の如く男子か此厄介を一人つゝ養ふ樣にては國家の不經濟此上なかるへし故に女子も奮て教育を受け技藝を修めて財産を作り早く彼の婦人の如き權力を有すると共に國家の經濟を調理せすんはある可らす彼の禍の來るは其來るの日に來るにあらさると一般我婦人の勢力を失ひしも其失ひしの日に失ひし者にあらすして其失ひしの日は遠く儒佛の傳來の日に始りしを知るへし又彼婦人か勢力を得しも其得しの日に得しにあらすして之を得しは亦其前にあるを知るへきなり今や土地風俗の異なるに從て是か授産の法方と之に適する職業を述へんとす

前章論する如く我國の婦人をして早く男子の厄介を脱せしめ相應に權力を存せしめんには各自相應の產業を授けて財産を有せしむるの肝要なるは今日の輿論なりと雖とも其産業を授けんとするには其法方多岐にして一ならず今假に之を大別すれは蓋し教育の力以て智識を研き技藝を修めて之を導き風俗を改良して後始めて其完全なるを見るへきなり故に先つ教育の點より是を述へんとす

(A)教育の力を以て婦人に授産を計るの準備

(1)女子の教育を奬勵する事、我國今日の女子は上流は相應の教育を受け從て相應の智識を有すると雖とも中下二流の女子に至ては大抵無學にして伊呂波を以て日用を達するは先つ上

乘にして己の姓名も書し得さる者過半なり彼院本の鶴殺に於けるか如く己か夫の惡事を記せしものを己自ら代官所に捧け夫の捕縛を見て始めて其始末を知り訴狀を捧けしを悔ゆる杯今日の女子も猶斯の如き無學なるもの多しとす然るに今斯の如き者に向て女權の貴ぶへきと國家の經濟等を說も馬耳東風蛙面に溺すると一般到底其感覺を見さるは猶彼木偶に等きなり然れは今新に斯の如き者に敎育を施さんとするも所謂六日の菖蒲十日の菊にして只從來腦漿に浸染せし各種の習慣あるもの所謂先入主となり更に敎育を受くるの念なく敎育の力も如斯下流の者迄も陶冶するは甚た難事たるを免れす只要する所は學齡の女子にして後來人の妻となり母となるものに向て充分に敎育を施すにあり然るに我國の風として幕府の頃女子の敎育を輕せし餘習猶未た脫せす動もすれは女子の敎育を等閑にするの弊ありて殊に下流に至ては女子敎育を無用視するもの比々皆是なり故に勉めて女育を奬勵し智識を養成する事肝要なり見よ牛馬の如きも馴練に由ては人の使命を解するにあらすや然るに如何に愚鈍なるにもせよ萬物の靈長とも云はるゝ人類たる以上は敎育の力豈に感化し得さるの理あらんや是故に敎育の奬勵は本論中第一に論する所にして所謂其根部の培養にして尤も價ありとする所なり

(2)小學女生徒に職業を嗜むの風を習はす事、習慣は第二の天性とも云ふへき程の勢力を有する者にして殊に幼稚の際に腦裡に浸染せし思想は容易に之を改むる能はさる者にして此良否は實に賢愚の由て判るゝ所なり故に今日我女子に相應の智識と相應の職業を會得せしめんとするには女子の小學に在る際に於て敎師の口頭より古今の談柄或は新聞雜誌の報知等に就て職業の重んすへきとを丁寧入念に訓示して女子たるものも成人に及んては男子と均しく必す職業を營て是迄男子に依賴せし習俗を破却して獨立するの樂深きとを知らしめ一般に職業を嗜むの風を此際に於て腦漿に感覺せしむると則根部の培養とも云ふへき者にして夫より進んては枝葉の繁茂となり逐て美花を開かしめ秋實を後日に期すると肝要なり故に小學敎師其人の如きも常に此意を含みて兒女の敎育に盡力あらんと殊に女子師範學校に勉學せらるゝ女子諸君は格別注意を要する所なり

(3)女子師範學校を擴張する事、女子師範學校は本論中其望を屬する深く尤も大なる所よりして是か擴張を計るは實に緊要なるとなり何となれは後日望あるの幼童を敎育し及ひ之か母たる上流の女子を養成する所たるを以てなり斯く大なる責任を帶ふるものを養成するには其課程の如きも實學實業を主として品行を愼み文字の一方にのみ偏せさらんとを切要とはするなり然るに中には動もすれは外飾を務めて學藝を疏し行步の間も是れ見よと云はぬ計りに意氣揚々と大足に步み温順柔和の風儀を亂りて顧みさる者ありて往々父兄に不快を感せしむる者少からすと聞く若し是をして眞ならしめは後來に及すの影響決して小ならすして臍を嚙むの悔あらんとす萬一此校にして其目的を失せは日本女子の改良は實に覺束なき者なり在學の女生は勿論其父兄及有志の注意を以て早く斯の如き惡評を防き善良なる女敎師を多く世に出さんと希望して措かさる所なり而して猶是に次て緊要なるものあり曰く

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

(4)有志女學校を盛大にする事、是なり抑も世に紳士を以て稱せらるゝもの及ひ我國女子の先導者を以て任するの有志ハ率先務めて有志女學校を設立し盛に女子を誘導して教育を受けしめ實用に適切なる課程を授けて智識を養成すると是實に目下の急務なり今や我國教育の道盛なりと雖とも女子を教ゆるの所ハ只々女子師範學校と小學校及二三の有志女學校あるのみ一千九百万人の女子を教ゆるに豈斯の如の小數なる校舍を以て滿足すへけんや必すや務めて先つ簡易なる讀書會或ハ談話會の如きものを設立して目下の急務を救ふと一日も忽にすへからさる事なり

(5)女子職業學校を設立する事、女子に適切なる職業を數ふれハ十百も只ならすと雖とも其身分に應する者を撰んて授けんとするに有志の者率先して盛に簡易なる職業學校を設立し一方にハ教育を授けて智識を働し一方にハ適切の產業を授けて財產を造るの要を得せしむると日本婦人授產策中尤も其實力あるものにして目下一日の早を爭ふ事業なり而して此校に於て授くる所の職業の如きも都鄙の別に從て其宜を斟酌して或ハ裁縫に製造に養蠶に身分相應の職業を教へ學期の如きも可成短縮を主として一方にハ諸般の工業會社を設立して女子をして誘導職に着かしめんとを計るハ實に肝要欠く可らさる事なり

(6)產婆學校を盛大にする事、我國產婆を業とする者を見るに大抵無學文盲にして少しく手馴れしと云ふに過きす故に師に從て學ふものハ少く多くハ其母にして產婆なれハ其娘も之を見習て產婆となるの風俗なるを以て生理の說明の如きハ空々盲々日用一般の教育も受けす己の姓名すら知らさる程の者多きを以て從て品格なく却て賤業視せらるゝの風あり當時衛生の道大に開け生命を重んする昔日の不養生なる時とハ雲泥の差ある今日にして胎子發育の理由ハ矢張錫杖の如き者の思を爲す產婆に婦人一生の最難事とも稱すへき者を放任して顧みさるハ實に鯨呑の極度言語同斷と云ハさるを得す是等の改良の如きも一日の早を爭ふ者にして早く彼西洋の如く相應の教育を授け孕婦の手當より胎子の健全を計り世間難產の憂を斷つと共に之か品位を高くせんとを務めさる可らす故に府縣其設ありと雖とも未た規摸小にして之を以て決して滿足すへきにあらす是か改良と共に益々盛に產婆學校を設立して從來無學なる產婆の跡を斷たんとを務めさる可らす

(7)看病婦學校を設立する事、看病ハ所謂女子の天受の性とも云ふへき者にして實に病人の看護にハ婦人に若く者ハなきなり然るに我國衛生の學を講する日猶淺きを以て看病の如きハ格別意を注かさる有樣なり夫れ病人ハ醫師を除けハ力とする所只看病其人にあり殊に重症の者に至てハ看病人代て其容躰を醫師に告くる抔一般の事なるに察脈の法も知らす調劑の法も覺らす看病の手續に至ても一向に不案內なる者に任するの弊あるは病客と共に痛歎する所なり然るに西洋にては夙に看病婦學校の設けありて大抵の女子は皆之を卒業して殊に榮擧なるとゝすると聞けり我國に於ても早く斯の如くならんとを務めさる可らさるなり

以上の各項は日本婦人授產策中骨格とする所にして殊に上流なる女子を陶治する目的とする者なり何とあれは所謂心を

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

勞するものは人を役し身を勞するものは人に役せらるゝの道理にして教育の如き無形上に思慮を費すこと多きものは上乘の人にして勞働の如き有形上に手足を苦むるものは下等の人なれはなり今や本論に次て說を爲さんとするものは風俗上の改良とす

(B)婦人授産の爲め風俗の改良を要するの事項

(1)財産分配法を行ふ事、我國にハ財産分配の事未た行はれさるを以て父母の遺産なる者は只其家系を相續する者にのみ與ふるの風俗にして其餘の弟妹に至ては父母より受くる所の財産は只聟入嫁入の仕度位に止まる者なるを以て養父母の家に入るや其養父母の補助を仰きて養父母の財産を當事とする者一般の風俗なるに似たり然るに西洋にては前にも略ほ述ふる如く夙に財産分配の事行はれ兄弟姉妹の別なく各其父母の財産を貰ひ受くるの風俗なるを以て結婚するも我國の如く直に養父母の補助を仰かす皆身分相應の財産を有するを以て俄に夫の支配を受けす身自ら管理するの力あるを以て其權力も從て大なりと云ふ實に羨むへきの風俗にして云ハゝ我國今日の風俗は甚た不公平なる事と云はさるを得す何となれは兄弟姉妹均しく之れ父母の愛子なり然るに獨り相續人にのみ厚くして弟妹は顧みさる如き決して公平とハ云ふ可らさるなり然りと雖とも父母敢て其弟妹を愛せさるにあらすして風俗の然らしむる所決して父母を怨むへきにあらさるなり故に斯の如き風俗は一日も早く改良して西洋の如く財産の分配を實施せんことを勉めさる可らす而して其實施の如きも敢て難きにあらさるなり

(2)金錢の貯蓄を奬勵する事、金錢貯蓄の事是れ亦目下の急務にして緊要なることなり抑我國の風俗として貯蓄の念力薄く動もすれは今日の所得は以て今日の費用に盡し明日の所得は明日の費用に充るの弊尤も盛にして中に少しく貯蓄を爲すものあれハ或は吝嗇なりと嘲り金錢を濫費する博徒社會の如きものを却て切れか良きの男氣か有るのと譽め或は宵越しの錢を持たすと誇る抔實際屢々目擊する所なり豈斯の如きの思想を以て何をか資本を造り出すを得んや世人は寧ろ吝嗇と嘲るも成るへく金錢の貯蓄を務めて財産を造り一方には他日若し不幸にして疾病等の事あるも金錢の工面に奔走して借財の奴となり笑を招くとなからん樣早く此弊を改めすんハある可らさるなり而して女子は稍男子より貯蓄の念深きの風あるを見るなり

(3)結婚年齡を廿年後と改むる事、我國當今の結婚は早きに失するもの過半なり就中早き者に至ては十三四にして嫁き其最も遲き者にして廿歲に至らず然るに若し心ある女子よして廿歲を超て猶嫁せさる者あるを見れは或は彼は不具ならん抔惡評を吐くもの當時一般の風俗にして自然結婚を早からしむる者あるに似たり見よ彼の草木を見よ草木の花を開くや大抵生育の止りたる一定の時にあり其故は已れ既に成育を遂けて花を開き實を結ひて種を殘すに外ならす之を考ふるに人類と雖も一定の期あるべき理にして二十年前は云はゝ身躰發育の期中なり然るに已れが身躰尙盛に發育する期にありて忽ち花を開かせ子を産まば己の成育は茲に止りて衞生に害あるのみならず産子も亦從て虛弱にして夭死を免れず

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

社告

通信女學講義錄

第一卷十五日發兌

●緒言●女子生理●育兒心得●文學一斑●万國史畧●西洋女禮●問答叢話（紙數六十二頁）
一冊二十錢半年分前金一圓郵送税なし

第四回點取文成績

女學雜誌社

第四回點取文題（日本婦人歎）に對し答文を寄せられたる者都合十四通中女流の手に成る者四通あり點撿の後左の三氏を甲乙丙の受點者とし各預定の賞酬を呈す

甲點　信濃諏訪郡長池村　牛山尹子
乙點　伊勢多氣郡八木戸村　小竹啓二郎
丙點　越後西頸城郡糸魚川　吉岡福藏

第五回點取文題

女學雜誌社

妓樓存廢論

右は我國妓樓の存廢の可否を論じ若し之を廢すべしとあらば併て之を廢止するの策を說き若し之を存すべしとして何ほ更に現行の制度を改良するの點ありとせば亦併て之を論ずるに在り而して答案は可存論と可廢論との二種に分ち双方に甲乙の受點者を置くべし即ち調査の上甲點を受る者は女學雜誌三十冊を呈し乙點を受る者は同二十冊を呈す
右答文〆切時日を來る六月三十日と定む右日限後に到着する者は乍遺憾點撿の中に收めず

材料新誌

第一卷

演說著作

右は材料新誌第一號より九號に至る九冊を合して一卷とし使用の便を圖りたるもの也本誌のよく文人論客の需むる所に應ずるに足るとは今別に言はず
右新誌一號づゝの散本も何ほ殘余有之に付見本入用の方は一部代價として郵券十錢を送らるべし

東京新橋日吉町八番地　女學雜誌社

頌榮女學校

本月八日定期試驗を結了せり依て更に生徒數名を募る學科ハ米國女教師並に本邦教師數名を以て英學並に普通學を教授す有志の人ハ本月中に申込あれ

明治二十年四月十二日

芝區白金猿町五十三番地

明治女學校　新入生徒募集

定期試驗濟に付來る十八日より新入生徒の入校を許す

東京九段坂下公園地内
樹木嵜若池水明淸の邊

明治女學校

國民の教育

每號定價金五錢
每月四回發行
十部前金四拾五錢

本誌ハ凡そ國民の教育上に關する中外諸家の論說を始とし官報及び府縣の通信歐米各國の來報等を網羅蒐集したる者にして實に全國教育家必覽の好誌あり即今發刊願中に付不日允准以弟號印布可仕候此段豫て稟告仕置候也

小學教文雜誌

每號定價金四錢郵税一冊金五錢
每月二回發行
十部前金三拾七錢

右ハ是迄連月三回發兌の處自今一層紙面に改良を加へ連月二回續々印行可仕候此段附稟仕置候也

東京日本橋區馬喰町貳町目
石川教育書房内

興文社

摂生法（新著）

船越鼎太郎君著

產婦小兒

一冊十八錢郵税四錢

右は產婦小兒の養生法を平易なる文章にて何方にも分り易き樣認めたる者なれども所論は一々學理に照して實際を鑑み專ら當今の養生法其道を盡さゝるとを敎へたり故に月經の心得より、姙娠したるか否やを知ると、出產の期日を知る法、姙娠中の養生法、產後の養生法、赤子のとりあつかひ、乳を飮まする間の養生法、母の乳を用ひずして子供を育つる法等こと〴〵く信切に敎へたり世の母たらん人は何卒一冊を座右に置きて最愛の生子を誤りて取扱ひ玉ふやうのとなからんを希ふ

（出版兼發賣）

新橋日吉町八番地　女學雜誌社

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

○特に我姉妹に告く

本誌に何兩三回國民之友の日本婦人論を掲載すべければ幸に愛讀を玉へ

●●定價一冊八錢郵税一錢府內無税 見本一冊郵劵十錢●本社ハ前金ニ非レバ雜誌ヲ送ラズ爲替ノ向ヶ所ハ麻布郵便局

●半ヶ年六冊四十五錢一ヶ年十二冊八十四錢府外ハ郵税ヲ要ス

●●郵劵代用ハ郵便爲替無キ地ニ限リ一冊一錢ノ割增シ●●

第三號 本月十五日發兌

政治社會經濟及文學之評論

國民之友

本誌目錄○國民之友●在野の志士に望む所あり

日本婦人論 第一回 火を以て火を救ひ水を以て水を防く

時事評論●二十年度歳計豫算表●海軍擴張●歳計節用の効如何●敢て四百万圓の費途を問ふ●民も亦窮す矣●所得税出でたり●聖詔を讀して感あり●海防費の献金●北海道水産税●澎島の事件●長崎事件の結局甚しひ哉佛敎の衰へたる●新奇る●二大會社●立憲改進黨の集會●舊自由黨の諸氏將に大阪に會せんとす●東京は第二の巴理●黑田伯の歸朝近きに在り●露帝の凶報●歐洲の形勢○特別寄書●醉人之寄論（中江篤介君）●國家組織の基礎（植木枝盛君）●井上圓了氏の佛敎活論序を讀む（高橋五郎君）○雜錄●改進黨の大演説會●明治十九年基督敎信徒の統計●伊藤伯の海防費の演説を讀む●新日本卷之二●落葉の掃きよせ●擬人其他諸近著の批評○論説●人之權理●の夢▲叙事文範▲

發行所 東京府赤阪區榎阪町五番地 民友社

米國ケレー氏著○巖本善治君譯

女之未來

定價三十錢（新版）

東京神田雉子町 輿論社（大取次） 女學雜誌社

發兌	定價	廣告
四月。二日 九日 十六日 廿三日 三十日 五月。七日 十四日 廿一日 廿八日 六月。四日 十一日 十八日 廿五日 七月。二日 九日 十六日 廿三日 三十日	一冊。五錢 郵税。一錢（但府內無郵税） 十冊。四十八錢郵税。十錢（同前） 半年分 一圓十七錢 府外は 一圓四十三錢 一年分 二圓卅四錢 府外は 二圓八十六錢	特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を揭ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載する每に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分每に十部增の割合と定む 一行一回（廿七字詰）前金拾錢 同 三回以上 一割引 同 六回以上 二割引 十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町磯々堂○東京芝西久保櫻川町萬春堂○東京神田區雉子町開々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新葭町良明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本鄉區元富士町盛春堂○同本鄉區春木町二丁目解明堂○東京本鄉四丁目文壽堂○橫濱住吉町角田屋貞○京都四條通小橋へ入澤集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンボード○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版舍○出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎酒屋町虎與號○江州彥根西內大工町新々堂○相州小田原緑町石壽堂○上州高崎田町煥平堂○勢州松坂家里初枝

WOMAN'S MAGAZINE.
"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.
Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku-Zasshi Office, No. 8B Hiyoshichō, Shinbashi, Tôkyô, Japan.

遞信省認可

發行所 東京京橋區日吉町八番地 本局 女學雜誌社
持主兼編輯 巖本善治
印刷 森田豐

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

本誌に係兩三回國民之友の日本婦人論を掲載すべければ幸に愛讀を玉へ

●定價一冊八錢 郵税一錢 府內無税 見本一冊郵劵十錢●半ヶ年六冊四十五錢●一ヶ年十二冊八十四錢府外ハ郵税ヲ要ス

政治社會經濟及文學之評論

國民之友

第三號 本月**十五日**發兌

本誌目錄○國民之友●在野の志士に望む所あり

日本婦人論 第一回 火を以て火を救ひ水を以て水を防ぐ

時事評論●二十年度歳計豫算表●海軍擴張●歳計節用の効如何●敢て四百万圓の費途を問ふ●民も亦た窮す矣●所得税出でたり●聖詔を捧讀して感あり●海防費の献金●北海道水産税●渦島の事件●長崎事件の結局●甚しひ哉佛教の衰へたる●新奇なる二大會社●立憲改進黨の集會●舊自由黨の諸氏將に大阪に會せんとす●東京は第二の巴理●黒田伯の歸朝近きに在り●露帝の凶報●歐洲の形勢○特別寄書●醉人之寄論(中江篤介君)●國家組織の基礎(植木枝盛君)●井上圓了氏の佛教活論序論を讀む(高橋五郎君)○雜錄改進黨の大演說會●明治十九年基督教信徒の統計●伊藤伯海防費の演說を讀む●新日本卷之二●落葉の掃きよせ●擬人の夢▲叙事文範▲其他諸近著の批評○論說●人之權理

●本社ハ前金ニ非レバ雜誌ヲ送ラズ爲替ノ向ヶ所ハ赤坂郵便局●

發行所 東京府赤阪區榎阪町五番地 **民友社**

●郵劵代用ハ郵便爲替無キ地ニ限リ一冊一錢ノ割增シ●

米國ケレー氏著○巖本善治君譯

女之未來

定價三十錢 (新版)

東京神田雉子町 與論社 (大取次) 女學雜誌社

發兌	
六月○四日 十一日 十八日 廿五日	
七月○二日 九日 十六日 廿三日 三十日	

定價		
一冊○五錢 郵税○一錢 (但府內無郵税)		
十冊○四十八錢郵税○十錢 (同前)		
半年分	一圓十七錢	府外は 一圓四十三錢
一年分	二圓卅四錢	府外は 二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載するに右雜誌十部の注文を要し以上半頁分每に十部増の割合と定む

一行一回 (廿七字詰) 前金拾錢
同 三回以上 一割引
同 六回以上 二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町巖々堂○東京芝西久保櫻川町萬春堂○東京神田區雉子町鬪々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新葭町頁明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本鄕區元富士町盛春堂○同本鄕區春木町二丁目解明堂○東京本鄕四丁目文壽堂○横濱住吉町角田屋貞○京都四條通小橋へ入澤集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンボード○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版舍○出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎酒屋町虎與號○江州彦根西內大工町新々堂○相州小田原綠町石壽堂○上州高崎田町煥乎堂○勢州松坂家里初枝

WOMAN'S MAGAZINE.
"JOGAKU ZASSHI."
Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six month
2.86 per annum, in advance.
Edited and published by Y. H. Iwamoto, at
Jogaku-Zasshi Office, No. 8B HIYOSHICHŌ,
BASHI, Tôkyô, Japan.

發行所 東京京橋區日吉町八番地 本局 女學雜誌社
持主兼編輯 巖本善治
印刷 森田豐